

【人間文化研究科 言語科学専攻】ディプロマ・ポリシーに示された「力」とアセスメントの方法・指標

研究科専攻	課程	DPに示された「力」	アセスメントの方法・指標
言語科学専攻	M	DP1：データを収集・分析し、仮説を立案し、それを検証するという経験科学の研究手法を理解し、実践する力	学位論文審査基準（6項目すべて）および特定課題研究審査基準（4項目すべて）の観点から、学位論文・特定課題研究の成果を把握・分析する。
		DP2：特定の言語、言語現象、あるいは言語習得について理論的に分析できる力	学位論文審査基準のうち「研究方法の適切性」「専門性・学術的貢献」の観点から、また特定課題研究審査基準のうち「方法論」の観点から、学位論文・特定課題研究の成果を把握・分析する。
		DP3：言語教育についての体系的かつ高度な知識を有し、第二言語としての英語や日本語などの言語教育者として従事できる力	英語教育領域および日本語教育領域の学位論文または特定課題研究の成果を把握・分析する。また、修了時調査により、英語教育および日本語教育関連の科目の単位取得状況および成績を把握・調査する。
	D	DP1：言語理論あるいは言語習得論の領域において研究者として自立し、その領域で指導的な役割を担い、社会に貢献できる研究を遂行する能力	学位論文審査基準（7項目すべて）の観点から、学位論文の成果を把握・分析するとともに、学会発表などの研究活動を把握・評価する。
		DP2：言語理論あるいは言語習得論についての専門的な知識を有し、先行研究を批判的に評価し自律的かつ独創的な研究を遂行する能力	学位論文審査基準（7項目すべて）の観点から、学位論文の成果を把握・分析するとともに、学会誌などの専門誌における論文採択状況を把握・分析する。

方法・指標	実施時期	対象年次	結果の活用	レベル※
授業評価アンケート	毎学期	修業年限内の 全年次生	毎年度、Q2とQ4の終わりに実施し、アンケート結果を専攻と研究科委員会で報告・承認し、教育方法、研究環境の改善に活用。内部質保証委員会からのメタ評価と改善提案も同様に活用。	学位プログラム レベル/授業科目 レベル
研究倫理教育プログラム受講実績	入学時（以降、3 年に1度）	初年次	研究推進課が実施し、受講実績を大学院委員会および内部質保証委員会で報告して、研究公正の実現に活用。専攻からは、各大学院生に必ず受講するように指導している。	学位プログラム レベル/授業科目 レベル
学位論文計画書	所定の期日	修了年次生	各大学院生が提出したものを研究科委員会で共有することで、研究指導の改善に活用。	学位プログラム レベル/授業科目 レベル
学位論文	1月または7月	修了年次生	学位論文審査基準に基づいて学位論文を評価し、研究科・専攻のDPの達成度の評価に活用。	学位プログラム レベル/授業科目 レベル

※学位プログラムレベル：研究科専攻単位で実施 / 授業科目レベル：教員単位で実施